

一関・平泉地方

◆地域の情報や話題を
お寄せください

本社編集局 0191(26)4204
千厩支局 0191(53)2233
平泉支局 0191(46)5104

各駅たすきつなぐ

一関楽走会 大船渡線100周年記念駅伝

一関楽走会(佐藤東会長)は19日、一関市と宮城県気仙沼市で、JR大船渡線開業100周年記念駅伝を行った。真夏の暑さの中、会員20人が一ノ関―気仙沼間の沿線各駅でたすきをつなぎ、13区間75・5キロを走破。出迎えた沿線住民らとともに、同線の未永い存続へ思いを一つにした。

同線一ノ関―摺沢間が26日に開業100周年を迎えるのに合わせ、機運醸成と利用促進を図ろうと企画。JR東日本の協力、10社・団体の協賛で実施した。午前5時に一ノ関駅でセ

レモニーを行い、会員は100周年記念のたすきを着け、同会ののぼりを掲げ沿線の道路を力走。各駅では充実した表情。12駅でたす

地元住民も出迎え、ランナーをねぎらった。

陸中松川―狛鼻溪間2・9キロを走った齋藤明美さん(61)は「楽しみにしていた。走りやすいコースで、沿線の景色を見ながら和やかに走ることができた」と

きをつなぎ、出発から8時間40分かけて佐藤会長(76)を先頭に気仙沼駅前にゴール。地元関係者やJR社員の出迎えを受けた。

同線の平藤一氏幸駅長は「普段から皆さまに支えられ、今回も機運を高めるために実施いただき本当にありがたい」と感謝。気仙沼市の菅原茂市長も「皆さんの思いを、4年後の(同線)気仙沼開業100周年につなげていきたい」とメッセージ

一ノ関を寄せた。佐藤会長は「朝方は爽やかだったが途中から暑くなり、高低差やきつい道もある中、みんなよく走ってくれた。地元の方々に盛大に歓迎いただき、びっくりした。これからみんなで(同線に)乗車して帰る。今後もし盛り上げていきたい」と話していた。



地元住民や関係者が出迎える中、JR気仙沼駅前にゴールする佐藤会長ら一関楽走会の会員

